

第4章 推進体制

4.1 奄美ミュージアム推進会議の設置

奄美ミュージアム構想を推進するための組織として、「奄美ミュージアム推進会議」を設置します。また、「奄美ミュージアム推進会議」のもとに「専門部会」、「各島分科会」を設けます。

なお、事務局は当面、奄美群島広域事務組合に置きます。

(1) 奄美ミュージアム推進会議

奄美ミュージアム構想を円滑かつ継続的に推進するために、奄美群島全域を対象とした戦略の立案機関、専門部会への助言機関、専門部会間の調整機関として「奄美ミュージアム推進会議」を設置します。

推進会議のメンバーは、奄美群島内外の自然・歴史・文化・産業・観光・環境・教育・福祉などにかかわる有識者、NPO、団体、コミュニティ組織、事業者、行政関係者とします。

推進会議では各展開方策(アクションプログラム)の点検や進捗状況の評価を行うとともに、社会経済情勢の変化等を踏まえ、必要に応じて展開方策(アクションプログラム)を見直す機関としても機能させます。

推進会議は、奄美の宝に関する情報の収集や調査研究を促進するため、大学・研究機関・博物館等と連携します。

(2) 専門部会

各展開方策(アクションプログラム)の実現方法や推進スケジュールなどを具体的に協議・検討するため、推進会議のもとに、4つの専門部会を設置します。

奄美癒しツーリズム部会:主に観光に関する事項を専門的に協議・検討する。

人材育成部会:主に人材育成に関する事項を専門的に協議・検討する。

奄美ブランド部会:産業クラスターの形成をはじめ主に産業全般に関する事項を専門的に協議・検討する。

奄美IT活用部会:主にITを活用した情報発信に関する事項を専門的に協議・検討する。

専門部会のメンバーは各専門内容により適切な地元有識者を中心に構成しますが、必要に応じて群島外の有識者をアドバイザーに迎えることができます。

各専門部会は、自ら議題を設定し、自主的に取り組むことを基本とします。

各専門部会の開催回数は、各専門部会にゆだねられますが、月に1度以上の開催を呼びかけます。専門部会のもとに実働組織として委員会等を設置できるようにします。

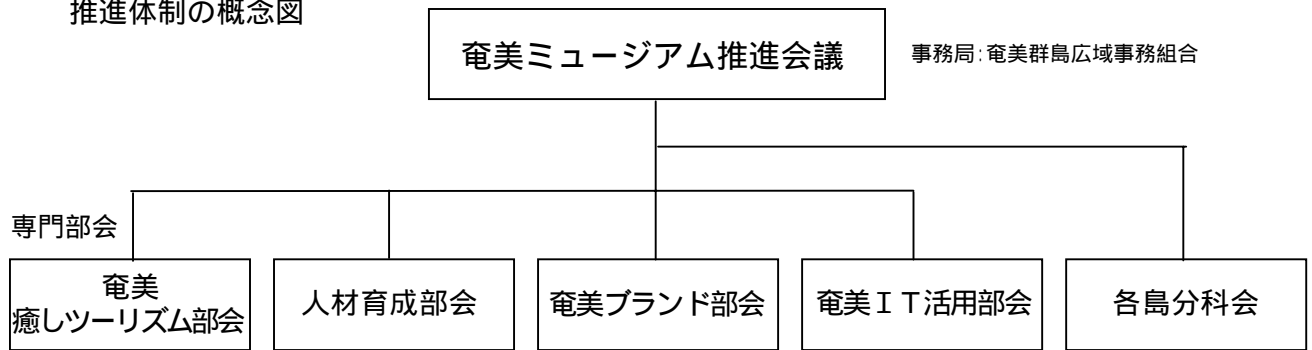
(3) 各島分科会

各島での円滑な推進のため、北大島、南大島、喜界島、徳之島、沖永良部島、与論島の6つの分科会を設けます。

各島分科会には、必要に応じて専門部会を設置します。

各島分科会は、各展開方策の推進にあたり、適宜、他島の分科会と連携・協力し合うこととします。

推進体制の概念図



4.2 各島における奄美癒しツーリズムの受入体制づくり

(1) 受入体制の考え方

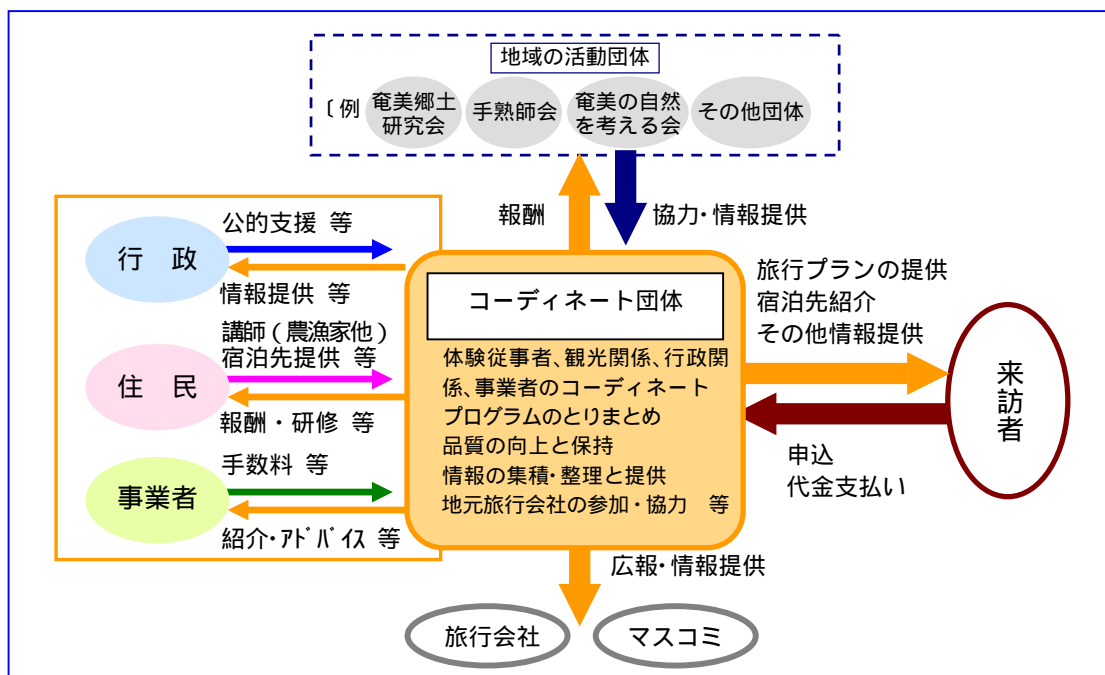
奄美癒しツーリズムの持続的・発展的な展開を図るため、地域住民、事業者、そして行政の協働と連携による受入体制づくりを行います。

(2) コーディネート団体の考え方

受入体制としては、「奄美癒しツーリズム」に関わる様々な分野の人々から構成されるコーディネート団体の設立が望まれます。

奄美の現状をふまえ、既存の団体や活動グループを発展させ、あるいは連携を図って、人づくり、組織づくりにつなげていきます。

受入体制の概念図



4.3 「あまみ長寿・子宝プロジェクト」等との連携

奄美ミュージアム構想の円滑な推進を図るためには、「あまみ長寿・子宝プロジェクト」等との連携が重要です。

このため、奄美ミュージアム推進会議においては、「あまみ長寿・子宝プロジェクト戦略ビジョン」の推進母体として設立された「あまみ長寿・子宝プロジェクト推進協議会」をはじめ、あまみ長寿・子宝プロジェクトに係る推進体制等との緊密な連携を図りながら、奄美ミュージアム構想を推進します。

イメージ図 あまみ長寿・子宝プロジェクト構想体系図



4・4 大学・研究機関等との連携

本構想の推進に当たっては、鹿児島大学をはじめとする大学・研究機関等との連携を図りながら進めていく必要があります。

このため、大学・研究機関等が有する奄美の宝に関する情報や調査研究の成果を必要に応じて、各展開方策(アクションプログラム)に積極的に活用しつつ、効率的・効果的な推進に努めます。

おわりに

奄美ミュージアムでは、地域住民が主体となり、地域の活性化や振興に結びつけていく自発的・継続的な取組が重要です。

その取組の基本となるのは地域の自然・歴史・文化・産業などに見られる特色ある「奄美の宝」です。これまでは当たり前とか、日常的なものとして捉えていた「奄美の宝」への認識が深まるとともに、これらを守り育て、さらには地域振興に活用していこうという意識が高まっていくことは、今後の奄美群島の振興にとって重要かつ大変意義深いことです。

また、「奄美の宝」を生かした具体的な展開方策(アクションプログラム)の推進にあたっては、地域住民のみならず、NPOをはじめとする各種の団体、民間企業、行政など奄美の宝に関するすべての関係者が、それぞれの創意工夫や特性を生かして連携し、協働することが重要です。

この構想の推進により、地場産業の活性化や観光・文化の振興などを図り、「癒しの島あまみ」づくりを進めてまいります。